

ひと部会の2021年度
—アンケート「館のマネジメント」—

岐阜県現代陶芸美術館 岡田 潔

◇ひと部会の活動

ひと部会は、協会会員館から仕事の課題などを聞いて、参考になる情報を提供することを目指しています。具体的には、リアルタイムなテーマを選んで、研修会や事例発表会を開催し、それに意見交換を交えてきました。

しかし近年はコロナ禍のため、集会が難しくなりました。2020年度は「写真デジタルデータの保管」のテーマで、協会会員へのアンケートを行い、その集計と参考情報を会員に配信しました。2021年度もコロナ禍が続く中、再びアンケートが活動の中心となりました。

◇ひと部会の会議

ひと部会では年度に2回程度、5名～10名の部会員が課題やテーマ案を出し合い、集まって話し合うことで、活動方針を決めていきます。いつも様々な案が出てきて、会議では2、3のテーマについて話が盛り上がります。例えば2020年度では、「デジタル・ツールの展示・教育普及への利用」「資料の保存方法」などのテーマが浮上しました。

2021年度は、リモート会議も模索しましたが、諸事情のため実施に至りませんでした。ようやく10月末に集まることができ、話は活発なものになりました。前年度から優先的に考えていたテーマに加えて、新しいテーマと活動形式の案が出てきました。「館のマネジメント」についてのアンケートと、「岐阜県博物館界の先達」へのインタビューです。いずれも、コロナ禍の状況で出来ることを考えた結果です。2021年度は、前者を実施し、後者の準備を進めることとなりました。

◇アンケート「館のマネジメント」

今度のアンケートでは、依頼の文書に「アンケート趣旨」を加えました。ひと部会での話の

内容を、よく知っていただきたいと思ったからです。その主な内容は次のとおりです。

- ①館の経営やマネジメントが近年、より課題となっている。これは予算にも関係する。
- ②事業の公的意義や費用対効果を示す指標は、どのようなものか。
- ③事業評価の方法や事例には、どのようなものがあるか。

このような趣旨に基づいて、アンケートの設問を、概ね次のように設定しました。（今日の関心事「オンライン研修の可否」の設問を加えました）回答の形式は自由記述です。

1 館のマネジメントについて 費用対効果等を意識した取組
2 展示やイベント等について 成果の集約と、評価方法（事例）
3 館のマネジメントについて 意識している課題や問題点

◇アンケートのとりまとめ

アンケートは2021年12月末に協会会員に依頼し、38件の回答を得ました。そのとりまとめを、翌年3月初めに会員に配信しました。

設問1に対しては、事業（展示・広報等）、予算（収入確保・収支バランス）、人的問題などの観点から、様々な事例が寄せられました。設問2に関しては、アンケートや内部評価等の事例が挙げられましたが、外部評価等をめぐって悩みが多いことも分かりました。設問3については、事業の実施・評価、予算の収入確保・執行、人的問題などの観点から、多岐にわたって課題意識が聞こえてきました。

今はまだ、現場の声の集約という段階です。ひと部会では今後、これを踏まえて、有意義な活動を模索したく思っています。

もの部会より 今年度事業報告及び 資器材配備設置館の募集！

令和3年度もの部会では、コロナ禍で大勢が集まることが困難な中、それを各々の学習期間と捉え、レスキューや保存関係のオンライン研修会や資料を逐次配信してきました。

中でも、作間亮哉氏の報告「那須資料ネットの設立と博物館・行政」(『地方紙研究414』2021年12月号)は、那須資料ネットが設立間もない中、身近な地域に根差した活動実績を残しており、組織、運営の在り方が今後参考になるのではと、部会員から話題が提供されました。次年度の活動に役立てていきたいと情報共有しました。

また、研究会等参加旅費の支払いを奨励してきましたが、コロナ禍もあって事例はありませんでした。

さらに、事業の柱として岐阜県下5域(飛騨、西濃、東濃、中濃、岐阜地区)にレスキュー配備用備蓄資器材購入品等の配布を計画しており、昨年度は中濃地区(岐阜県博物館)に冷凍庫を1台設置、今年度は協会より東濃地区(瑞浪市陶磁資料館)に2台目を設置することができました。

加えて日常的に必要な細かな資材を購入し、次年度配備します。配布物の内容は、次の通りです。

—薄葉紙(160枚1セット)、中性紙(33枚1セット)、キッチンペーパー(2本1セット)、ホコリ取り(1本)、高性能マスク(DS2)(20枚1セット)、エタノール(1本)、アルカリ電解水(1本)、精製水(1本)、雑巾(10枚1セット)、刷毛(大1、中2、小1)、洗浄用刷毛(中1)、ピンセット(1セット)、バグトラップ(80枚1セット)、ラップ(1本)、ニトリル手袋(100枚1箱)、霧吹き(2本)—これらを保管用コンテナ1箱に入れてお配りします。

設置館となってくださる館を求めています。地域一か所に限らず、将来的には近隣に配備されるよう増やしていきたいと思っておりますので、ご希望館は、もの部会まで積極的に声がけください。

(もの部会事務局：正村美里、齋藤智愛)

飛騨ブロック部会 第164回公開講座 「森林文化の起源を探る考古学」

講師：山田 昌久(東京都立大学 特任教授)

期 日：令和3年7月3日(土)

会 場：飛騨市美術館

参加者：31名



飛騨市は約94%が森林であり、森林率全国2位の岐阜県のなかでも2番目という多さです。そのような環境にあって、山からの恵みは生活に欠かせないものであり、その知恵は古く、縄文時代のころから積み重ねられてきたものでした。現在では、社会環境の変化によって山との関わりは希薄になり、飛騨地域で生まれた優れた山村文化は失われつつあります。このため、飛騨市で保管する国指定重要有形民俗文化財「飛騨の山糶及び木工用具」や、縄文時代の遺跡の出土木製品などを通して、山とひだびとの営みを掘り起こし、記憶を次世代へつないでいくことを目的として、飛騨市美術館企画展「山と生きるひだびと」を開催しました。

期間中には合計6種類のトークイベントやワークショップを実施し、山に関わる仕事や生活について実体験や実験考古学の最先端のお話が聞ける機会、山仕事や食生活を体験的に学ぶ機会を創出しました。その中の1つが第164回公開講座として実施させていただきました講演会「森林文化の起源を探る考古学」です。ご講演いただいた山田昌久氏がこれまでの調査結果や飛騨で実施した実験などについて解説いただきました。その中で、近年飛騨市河合町の山中和紙職人清水忠夫氏協力のもと実施しているという楮の調査について取り上げられ、植物から繊維を取り出し紙を作る工程は、日本では古代から中国では約3000年前から行われており、そして現在飛騨市では伝統工芸品として大切にしていることを紹介されました。その上で、人間の自然の恵みに対する英知は、縄文時代から現在まで、その地に住む人々の生活の中に息づいていると実験考古学の見地からお教えいただきました。なお、当日は対面で実施しましたが、講演会の様子は飛騨市公式YouTubeチャンネルにてご確認いただけます。ぜひご覧ください。

(飛騨市美術館 黒木祐香)



第165回公開講座 「おかえり、蓑虫山人！」

日 時：令和3年11月20日（土）
会 場：セラトピア土岐
参加者：44名
講 師：望月 昭秀氏・田附 勝氏
（『蓑虫放浪』著者・写真家）



東濃ブロック部会、東濃地区博物館等連絡協議会共催による公開講座を土岐市にて開催しました。

講座のテーマとなった「蓑虫山人」は幕末から明治時代に生きた放浪の絵師です。本名を土岐源吾（1836～1900）といい、天保7年に安八郡結村（現安八郡安八町）に生まれ、北は青森から南は熊本まで生涯を旅にきました。東北では、縄文時代の遮光器土偶の出土で知られる亀ヶ岡遺跡を発掘し、縄文の遺物を展示する展覧会を開催したことが記録に残っています。晩年は故郷へ戻り、全国の産物を展示する博物館のような施設「六十六庵」の建設を夢見つつ、明治33年に名古屋で没しています。

講師のお二人は、蓑虫山人に魅せられ、東海地方や東北地方を中心に各地に残る蓑虫山人の足跡をたどり、『蓑虫放浪』という本にまとめた著者と写真家です。ユニークな生き方をした蓑虫山人について、出生地である岐阜県の方たちに知っていただきたいと考え、お二人をお招きしました。

講演では、現在の安八町で生まれた蓑虫の生い立ちや若い頃に九州を旅した頃のエピソード、最も長く滞在した東北地方での出来事などを蓑虫の描いた絵や現地取材の写真などを示しながら、楽しくお話いただきました。

当日は、『蓑虫放浪』を愛読している遠方のファンの方、あるいは縄文時代への興味をきっかけに蓑虫を知った方、たまたま参加して初めて蓑虫を知った方など、地域や年齢ともに幅広い方にご参加いただきました。

蓑虫山人は、日本国66国の産物を展示したいという、今の「博物館」につながる考えを持った人でした。博物館に関わる者としてこれからも注目していきたいと思うと同時に、今後も地域にゆかりのあるユニークな人を紹介する機会を設けていけたらと考えています。

（土岐市美濃陶磁歴史館 春日美海）

飛騨ブロック部会 第166回公開講座 資料の3Dデータ化を学ぶ「3D合宿」

講 師：野口 淳（奈良文化財研究所客員研究員）
森 健人（路上博物館長）
期 日：令和3年11月27・28日（土・日）
会 場：飛騨みやがわ考古民俗館・FabCafe Hida
参加者：7名

【目的】年30日開館の飛騨みやがわ考古民俗館では、館を発信する手立てとして、石樺クラブと共に収蔵資料の3Dデータ化と公開を進めている。同じような目的を持つ学芸員らと進めたいと考え、作業を公開講座で行った。

【概要】日程は、冬季閉館中の2日間とした。学芸員の指導のもと資料を取り扱い、講師の指導のもと撮影・データ処理を実践した。夜間は、資料の3Dデータが学校教育のGIGAスクール構想と連動している飛騨市の活用事例を説明するなど、意見交換の場とした。

【成果】参加者が制作した3Dデータ7点を新たに公開した（<https://sketchfab.com/sekibo.club>）。これまでの公開データと合わせ、閲覧数は37,500回を数え、普及の新たな手段になる可能性が高いと考えられる。

また、参加者からは、「データ化のために1つの資料を100枚も撮影すると愛着が湧く」という意見があった。愛着を生じさせるのは博物館の存続にとって大切である。これは、当初予想しなかった効果であった。さらに、この取り組みを含め、資料公開の在り方を以下の書籍や講演等で伝える機会を得た。

このように、資料データの公開は次の展開に繋がっていることが認識される講座となった。

- ・「コロナ禍における博物館の挑戦」（群馬県博物館連絡協議会講演、2021.6）
- ・「関係人口と共働するオンライン発信一年間30日開館、飛騨みやがわ考古民俗館の挑戦―」（千葉県博物館・美術館等職員等研修会講演、2022.2）
- ・「関係人口と共働した文化財と博物館資料の活用―飛騨市モデルの報告―」（『奈良文化財研究所研究報告33』所収、2022.3）



（飛騨みやがわ考古民俗館 三好清超）

博物館協会 インフォメーション

協会ホームページが新しくなります。

すでに本誌を通じてお知らせのとおり、岐阜県博物館協会のホームページが4月より新しくなります。

トップページのバナーなどは、協会50周年記念の印刷物や同じくロゴのデザインを手掛けられたグラフィックデザイナー森美佳氏に依頼し、協会の意欲的な活動が感じられるものとなっています。また、レイアウトの工夫や検索機能なども追加して、以前よりさらに見やすく、利用しやすくしました。

基本的なコンテンツは従来ものを踏襲していますが、特に「新着情報」については、各部会や地域ブロックより直接書き込んでいただけるようになりました。よって、公開講座などの情報を会員の皆様にいち早くお知らせすることができます。これとは別に、「加盟館園からのお知らせ」も新たに設けており、各施設よりの情報提供の場や交流の場としての活用が可能となっています（いずれもホームページに公開されるのは、事務局の承認後となります）。また、「各加盟館園の情報」については、それぞれの施設ごとにパスワードを発行して、各自で情報の更新ができるようになりました（従来どおり、事務局を通じての更新も可能です）。さらに、要望の強かった会員専用のページについても、各部会などの成果をアーカイブ的にストックできます。

今後、会員の皆様の活用によって、このホームページをより充実したものとしていただくようお願いしております。手始めに、加盟館園で自館のホームページをお持ちの皆様には、是非とも協会ホームページへのリンクをお願いいたします。

なお、操作方法などについては、別途各施設にご連絡いたします。

新ホームページ

<https://www.gifu-museum.jp/>



トップページのバナー



「地図で加盟館園をさがす」



「協会について」



「機関誌一覧」

編集後記

私事ですが、岐阜県博物館に勤務した3年間、「こと部会」で機関誌の編集などに関わらせていただきました。この間、協会の活動を広く周知させることに、微力ながら尽力できたと感じています。4月の異動で本業務からは離れますが、新たな体制のもと「こと部会」の活動が一層意義あるものとなることを期待しています。

編集：岐阜県博物館協会「こと部会」
発行：岐阜県博物館協会
事務局：〒501-3941
関市小屋名1989（岐阜県博物館内）
（電話）0575-28-3111
（FAX）0575-28-3110
（URL）<https://www.gifu-museum.jp/>